

2020年12月期 第3四半期業績 説明会資料

The AGC logo is displayed in a white rectangular box on the right side of the slide. It consists of the letters 'AGC' in a bold, blue, sans-serif font. A small red square is positioned above the letter 'C'.

AGC株式会社

2020年10月29日

Your Dreams, Our Challenge

I. 2020年12月期第3四半期決算説明	P.3
■ 2020年12月期 第3四半期業績	P.4
1. 業績のポイントと主要項目	P.5
2. セグメント別・地域別の状況	P.14
■ 2020年通期業績見通し	P.21
付属資料	P.27

I . 2020年12月期 第3四半期業績

2020年12月期第3四半期（累計）：

	(前年同期比)	コロナ禍影響額
売上高	10,128 億円 (▲1,110億円)	▲1,440 億円
営業利益	406 億円 (▲330億円)	▲535 億円

- 戦略事業はコロナ禍の影響を受けず業績拡大
- ガラスおよび化学品がコロナ禍の影響を強く受け、減収減益

2020年12月期通期見通し：

	(前年同期比)	コロナ禍影響額
売上高	13,900 億円 (▲1,280億円)	▲1,890 億円
営業利益	550 億円 (▲466億円)	▲690 億円

- ガラス、化学品でコロナ禍の影響が大きいが、想定よりも早いペースで回復

1. 業績のポイントと主要項目

2020年12月期 第3四半期業績（累計）

(億円)

	FY2019 1-3Q累計	FY2020 1-3Q累計	増減	主な変動要因 (+)増加要因 (-)マイナス要因
売上高	11,238	10,128	▲ 1,110*	(+) 電子部材、液晶用ガラス基板、ライフサイエンス製品の出荷増加 (-) 建築用ガラス・自動車用ガラス、フッ素製品の販売数量減少 (-) 建築用ガラス、東南アジアでのクロールアルカリ製品、液晶用ガラス基板の販売価格下落
営業利益	736	406	▲ 330	(+) 電子部材、液晶用ガラス基板、ライフサイエンス製品の出荷増加 (-) 建築用ガラス・自動車用ガラス製造設備の大幅な稼働調整に伴う製造原価悪化
税引前利益	505	260	▲ 245	(+) 減損損失額が減少 (-) 欧州のガラス事業に関わる構造改善費用を計上
親会社の所有者に帰属する純利益	289	135	▲ 154	
為替レート (期中平均)				
JPY/USD	109.15	107.59		
JPY/EUR	122.66	120.90		
原油(Dubai,期中平均)	USD/BBL	64.02	41.40	

* うち、為替差影響は▲139億円、連結範囲変更の影響は+64億円

セグメント別業績 前年同期比較

■ ガラス、化学品、セラミックス・その他は減収減益、電子は増収増益

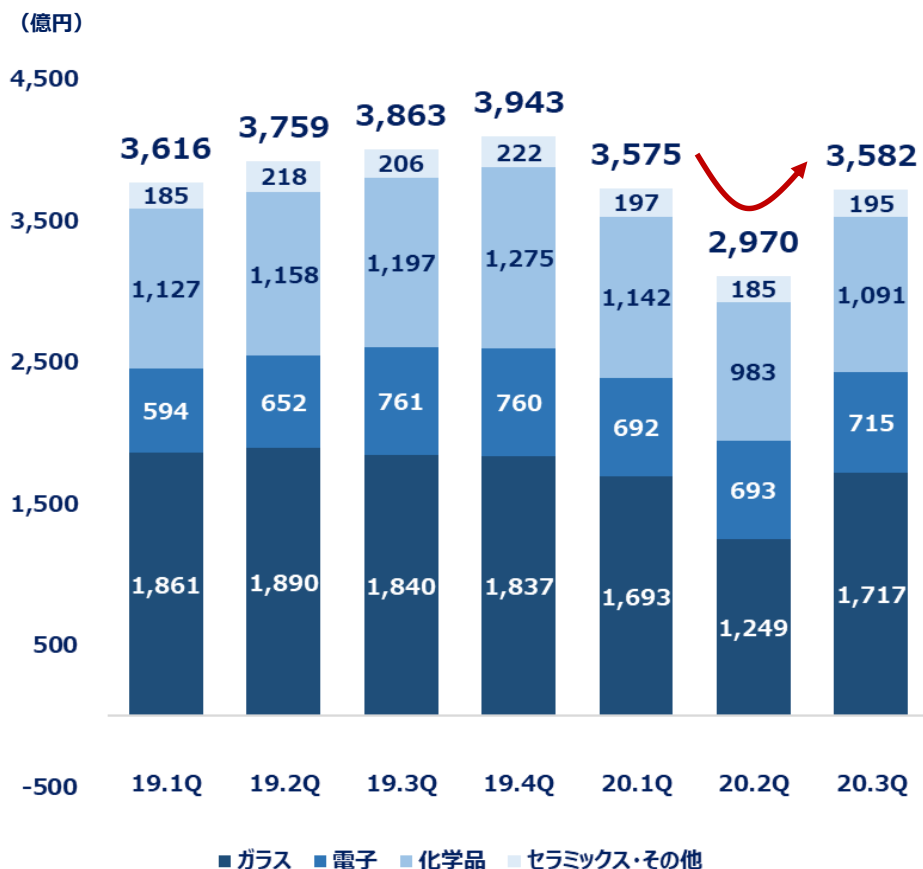
(億円)

	FY2019		FY2020		増減	
	1-3Q累計		1-3Q累計		(b)-(a)	
	(a)		(b)			
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
ガラス	5,592	97	4,659	▲ 219	▲ 934	▲ 316
電子	2,007	169	2,101	272	+ 94	+ 103
化学品	3,483	439	3,216	325	▲ 267	▲ 114
セラミックス・その他	610	31	577	29	▲ 33	▲ 2
消去	▲ 455	0	▲ 424	▲ 1	+ 30	▲ 1
連結合計	11,238	736	10,128	406	▲ 1,110	▲ 330

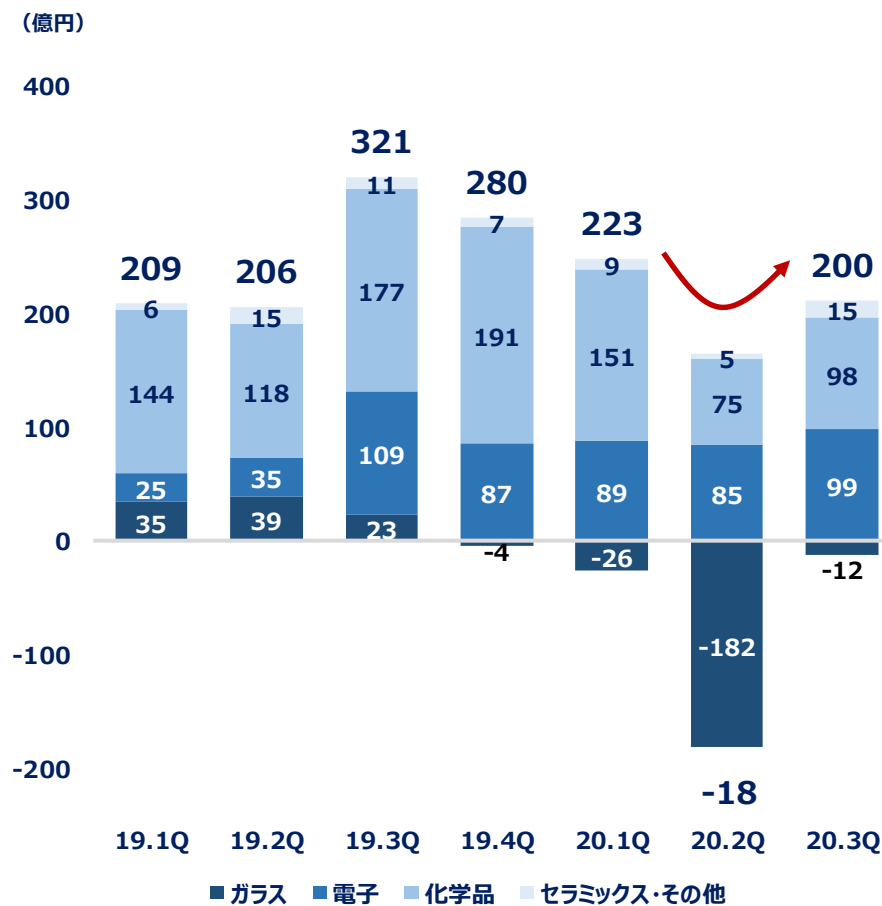
四半期業績トレンド

■ 売上高・営業利益は1Qと同レベルまで回復

売上高



営業利益



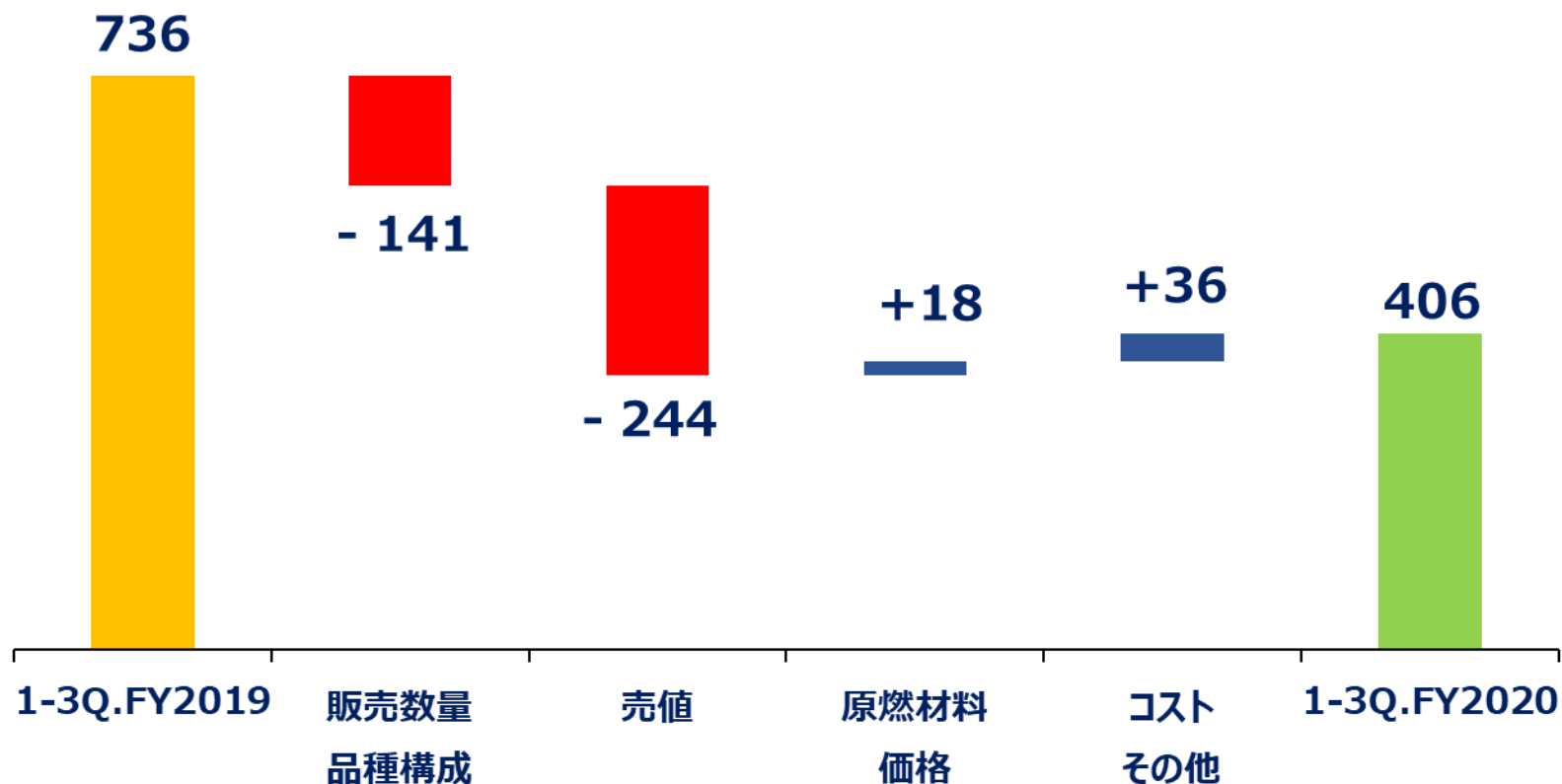
■ 2Qを底にコロナ禍から回復傾向

	1Q	2Q	3Q	3Q
ガラス	売上高 ▲100億円 営業利益 ▲30億円	売上高 ▲620億円 営業利益 ▲240億円	売上高 ▲200億円 営業利益 ▲70億円	(建築用ガラス) ・経済活動再開に伴い、全ての地域の出荷がQoQで増加し、稼働が改善 (自動車用ガラス) ・依然厳しい状況にあるものの、各国自動車生産の回復に伴い、QoQで出荷が増加し、稼働が改善
電子	売上高 ▲10億円 営業利益 ▲5億円	売上高 ▲30億円 営業利益 ▲10億円	売上高 ▲20億円 営業利益 ▲10億円	(ディスプレイ) ・液晶用ガラス基板は出荷に大きな影響なし ・ディスプレイ用特殊ガラスはスマホ市場の回復に伴い、QoQで出荷が増加 (電子部材) ・オプトエレクトロニクス及び半導体関連部材は出荷に大きな影響なし
化学品	影響なし	売上高 ▲230億円 営業利益 ▲80億円	売上高 ▲230億円 営業利益 ▲90億円	(クロールアルカリ・ウレタン) ・東南アジアの苛性ソーダ市況は低迷しているものの、塩ビ市況はQoQで回復傾向にある (フッ素・スペシャリティ) ・フッ素関連製品は一部製品でコロナ禍による需要減が緩和されたものの、輸送機器向け製品の需要などがQoQで減少 (ライフサイエンス) ・新型コロナウイルス関連ワクチン開発の新規受託もあり、QoQで堅調に推移
計	売上高 ▲110億円 営業利益 ▲35億円	売上高 ▲880億円 営業利益 ▲330億円	売上高 ▲450億円 営業利益 ▲170億円	

営業利益増減要因分析(1-3Q.FY2020 vs. 1-3Q.FY2019)

(億円)

前年同期比 330億円減益



■ コロナ禍で現金及び現金同等物を積み増し、一時的にD/Eが上昇

	2019/12	2020/9	増減	(億円)
現金及び現金同等物	1,138	3,114	+ 1,976	
棚卸資産	2,912	2,872	▲ 40	
有形固定資産・無形 資産及びのれん	13,516	13,793	+ 277	← 為替差影響 ▲97億円
その他	5,788	5,399	▲ 389	
資産合計	23,354	25,179	+ 1,825	← 為替差影響 ▲629億円
有利子負債	6,028	8,681	+ 2,652	
その他	4,500	4,566	+ 66	
負債の部	10,528	13,246	+ 2,718	
親会社の所有者に 帰属する持分合計	11,571	10,712	▲ 859	
非支配持分	1,255	1,220	▲ 35	
資本の部	12,826	11,933	▲ 893	
負債及び資本合計	23,354	25,179	+ 1,825	
D/E比率	0.47	0.73		

(億円)

1-3Q累計

	FY2019	FY2020
税引前利益	505	260
減価償却費及び償却費	1,049	1,072
運転資金増減	▲ 228	34
その他	217	186
営業活動によるCF	1,541	1,552
投資活動によるCF	▲ 1,512	▲ 1,736
フリーキャッシュフロー	30	▲ 184
有利子負債増減	310	2,507
支払配当	▲ 266	▲ 266
その他	▲ 26	▲ 27
財務活動によるCF	17	2,214
現金等に係る換算差額	▲ 45	▲ 54
現金等の増加額	2	1,977

1-3Q累計 (億円)

FY2019 FY2020

設備投資額	1,510	1,620
ガラス	559	424
電子	393	522
化学品	542	663
セラミックス・その他	16	11
消去	▲ 1	▲ 1
減価償却費	1,049	1,072
ガラス	395	385
電子	341	356
化学品	282	316
セラミックス・その他	32	15
消去	▲ 1	▲ 1
研究開発費	349	336

【主な設備投資案件】

- ・車載ディスプレイ用カバーガラス中国投資（ガラス）
 - ・ディスプレイ製造窯修繕（電子）
 - ・ディスプレイ中国G11投資（電子）
 - ・バイオ医薬品原薬製造工場買収（化学品）
 - ・合成医薬能力増強（化学品）
 - ・フッ素関連製品能力増強（化学品）
- など

【主な減価償却費増加要因】

- ・アサヒマスケミカル 発電所
(19Q2稼働開始)
- など

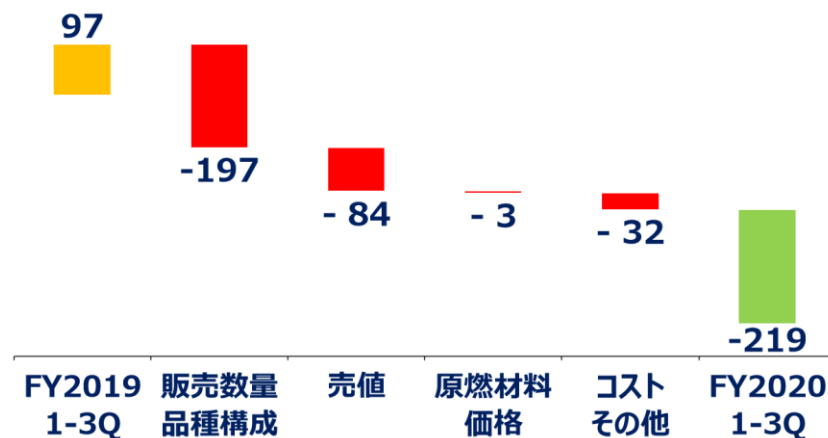
2. セグメント別・地域別の状況

営業利益増減要因分析

(億円)

	1-3Q累計		増減	増減率
	FY2019	FY2020		
売上高	5,592	4,659	▲ 934*	-16.7%
建築用ガラス	2,621	2,348	▲ 274	-10.4%
自動車用ガラス (セグメント間)	2,959	2,293	▲ 667	-22.5%
	12	19		
営業利益	97	▲ 219	▲ 316	-326.4%

* うち、為替差影響は▲93億円、連結範囲変更の影響は+5億円



〔売上高〕減収

建築用ガラス

- (一) コロナ禍の影響により出荷が大幅に減少
- (一) 日本を除く地域で販売価格が下落
なお、欧州は需給バランス改善により販売価格がQoQで上昇

自動車用ガラス

- (一) コロナ禍の影響により世界的に自動車生産台数が減少し、当社グループの出荷は減少

〔営業利益〕減益

建築用ガラス

- (一) 出荷減、販売価格下落に加え、需要減少に伴う製造設備の大幅な稼働調整により製造原価悪化

自動車用ガラス

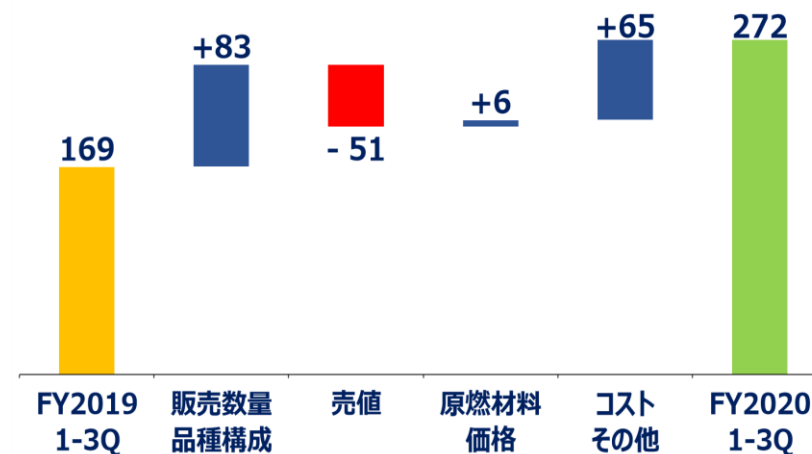
- (一) 出荷減に加え、需要減少に伴う製造設備の大幅な稼働調整により製造原価悪化

営業利益増減要因分析

(億円)

	1-3Q累計		増減	増減率
	FY2019	FY2020		
売上高	2,007	2,101	+ 94*	+4.7%
ディスプレイ	1,288	1,314	+ 27	+2.1%
電子部材	629	742	+ 113	+18.0%
(セグメント間)	91	45		
営業利益	169	272	+ 103	+60.9%

* うち、為替差影響は▲9億円、連結範囲変更の影響は+26億円



〔売上高〕増収

ディスプレイ

- (+) 液晶用ガラス基板の出荷は増加、価格は下落幅縮小
- (-) ディスプレイ用特殊ガラスはDragontrail®出荷減少

電子部材

- (+) オプトエレクトロニクス用部材およびEUV露光用フォトマスクブランクスなどの半導体関連部材の出荷が増加
- (+) Taconic社プリント基板材料事業などの新規連結が寄与

〔営業利益〕増益

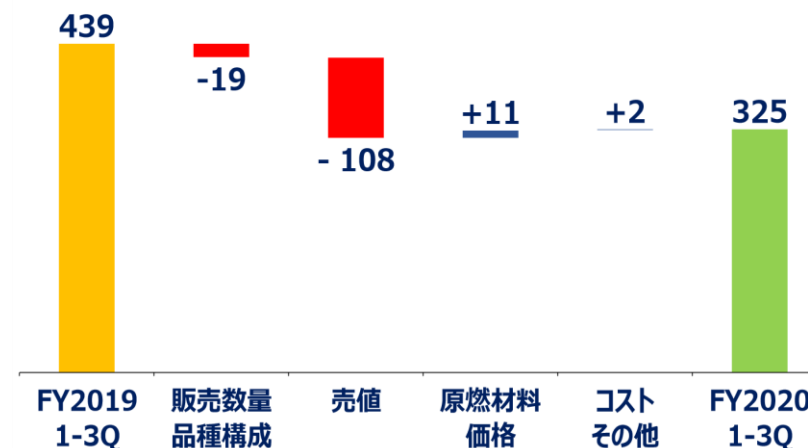
- (+) オプトエレクトロニクス用部材およびEUV露光用フォトマスクブランクスなどの半導体関連部材の出荷が増加

営業利益増減要因分析

(億円)

	1-3Q累計		増減	増減率
	FY2019	FY2020		
売上高	3,483	3,216	▲ 267*	-7.7%
クローラルカリ・ウレタン	2,160	1,886	▲ 274	-12.7%
フッ素・スペシャリティ	888	779	▲ 109	-12.3%
ライフサイエンス (セグメント間)	424	539	+ 115	+27.1%
10	11			
営業利益	439	325	▲ 114	-26.0%

* うち、為替差影響は▲36億円 連結範囲変更の影響は+33億円



〔売上高〕 減収

クローラルカリ・ウレタン

(-) 東南アジアでのクローラルカリ製品の販売価格が下落
なお、塩ビの販売価格はQoQで上昇

フッ素・スペシャリティ

(-) 輸送機器向けフッ素関連製品の出荷が減少

ライフサイエンス

(+) 合成医農薬、バイオ医薬品の受託件数が増加

〔営業利益〕 減益

(-) 東南アジアでのクローラルカリ製品の販売価格が下落

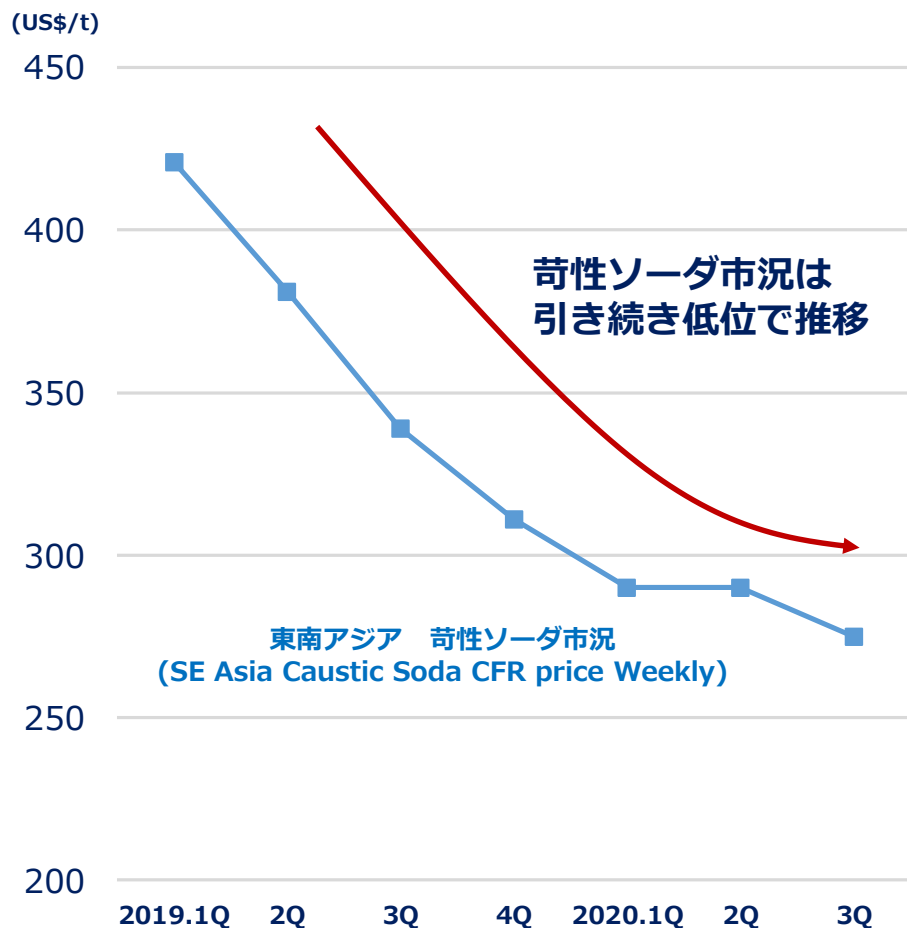
<営業利益構成比*>

	19/1-3Q	20/1-3Q
クローラルカリ・ウレタン	6割	3割
フッ素・スペシャリティ	3割	4割
ライフサイエンス	1割	3割

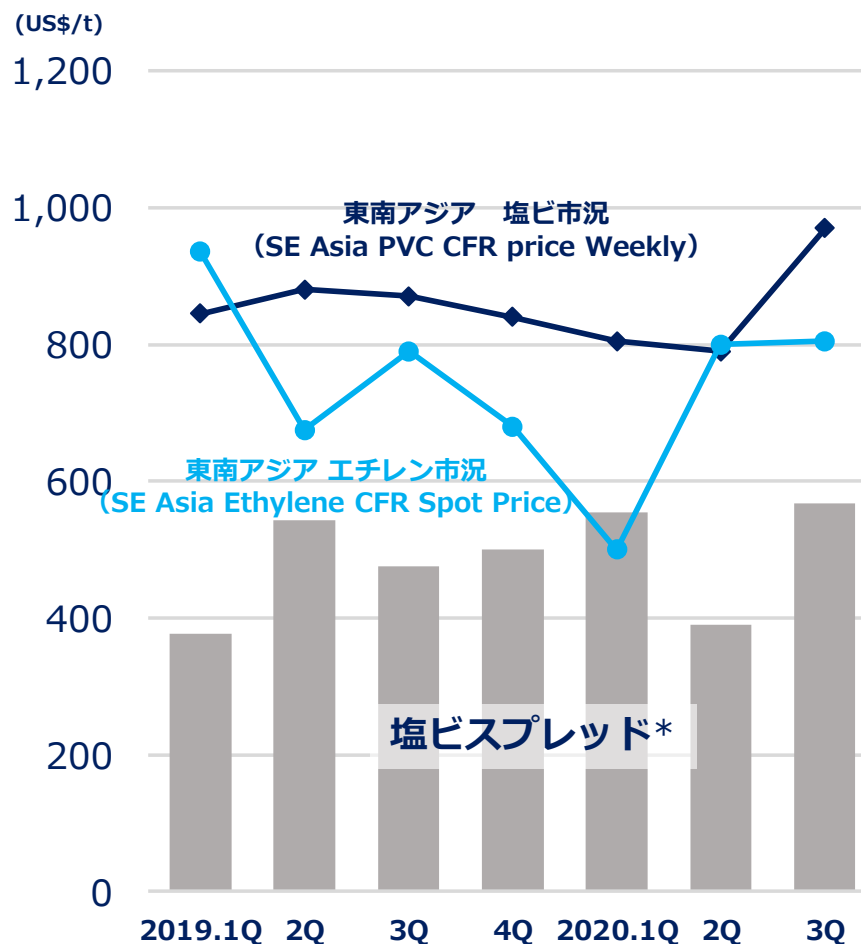
* 共通費用配賦前

(ご参考) 東南アジア 苛性ソーダ、塩ビ市況

苛性ソーダ市況



塩ビ市況

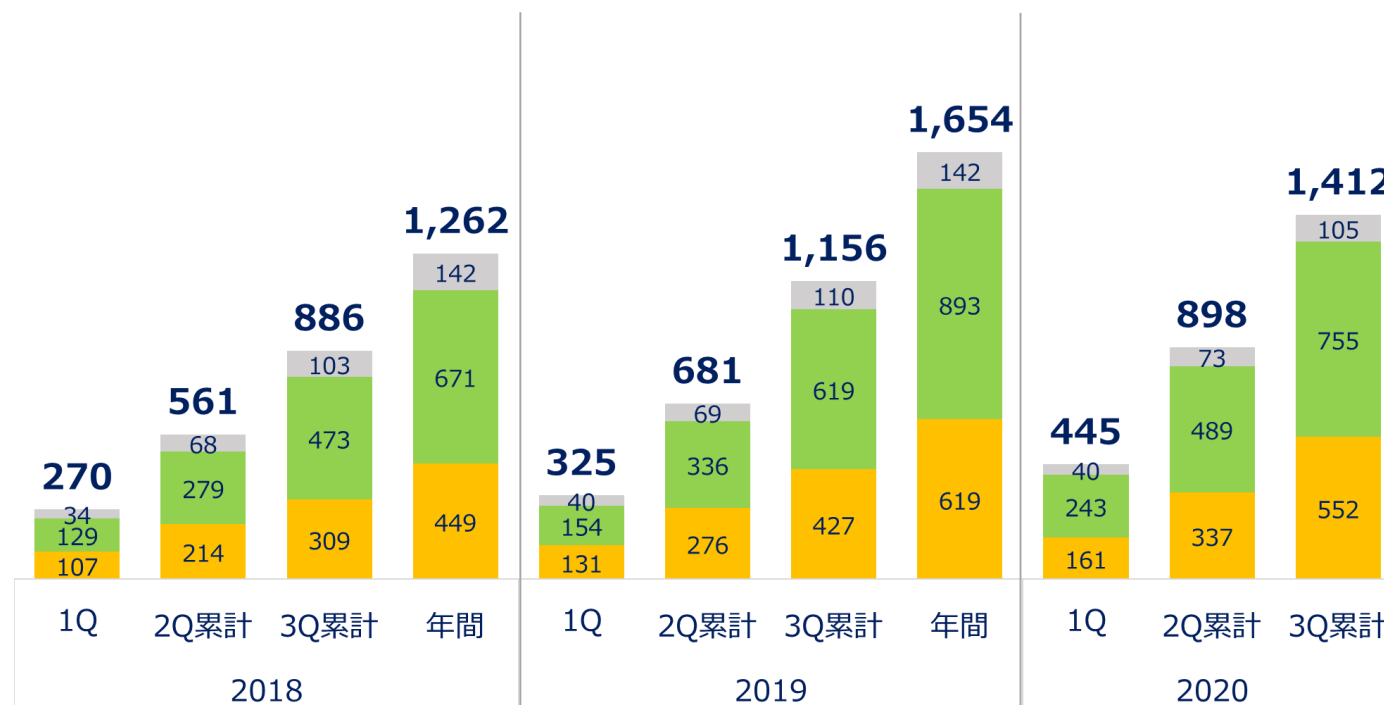


出典：Bloombergデータをもとに作成

*塩ビスプレッド：塩ビ市況 - (エチレン市況×0.5)で計算

■ コロナ禍の影響は限定的で順調に業績拡大

戦略事業売上高推移 (億円)



主な製品・事業

モビリティ

- ・車載ディスプレイ用カバーガラス
- ・モビリティ新規部材 (含5G通信)

エレクトロニクス

- ・半導体関連部材
- ・オプトエレクトロニクス用部材
- ・次世代高速通信用部材
- ・エレクトロニクス用フッ素製品

ライフサイエンス

- ・合成医薬
- ・バイオ医薬

	2018	2019	2020
戦略事業 営業利益	36	84	249
営業利益 貢献比率	12%	20%	61%

(億円)

地域別業績 前年同期比較

	1-3Q累計		(億円)
	FY2019	FY2020	増減
売上高	11,238	10,128	▲ 1,110
日本・アジア	7,391	6,771	▲ 621
アメリカ	1,303	1,110	▲ 192
ヨーロッパ	2,544	2,247	▲ 297
営業利益	736	406	▲ 330
日本・アジア	848	661	▲ 187
アメリカ	45	6	▲ 39
ヨーロッパ	136	4	▲ 131
地域共通費用	▲ 292	▲ 265	+ 27

為替影響：
▲139億円

新規連結影響：
+64億円

2020年通期業績の見通し

2020年 通期業績見通し

■ 2Qを底にコロナ禍から回復傾向にあるものの、前年比減収減益

(億円)

	FY2019	FY2020 (7/31予想)	FY2020 (今回予想)	コロナ禍 影響額
	通期	通期	通期	通期
売上高	15,180	13,500	13,900	▲1,890
営業利益	1,016	400	550	▲690
税引前利益	762	未定	350	
親会社の所有者に帰属する 当期純利益	444	未定	180	
1株当たり配当 (円)	120	未定	120	
営業利益率	6.7%	3.0%	4.0%	
ROE	3.9%	–	1.6%*	
為替レート (期中平均)				
JPY/USD	109.1	109.1	106.9	
JPY/EUR	122.1	119.6	121.9	
原油 (Dubai,期中平均)				
USD/BBL	63.5	42.8	42.3	
エチレン(CFR SEA)				
USD/MT	823	600	684	

* FY2020予想のROEは、2019年12月末時点の親会社の所有者に 帰属する持分合計を使用しています。

セグメント別 売上高/営業利益見通し

■ ガラス、化学品は減収減益、電子は増収増益となる見通し

(億円)

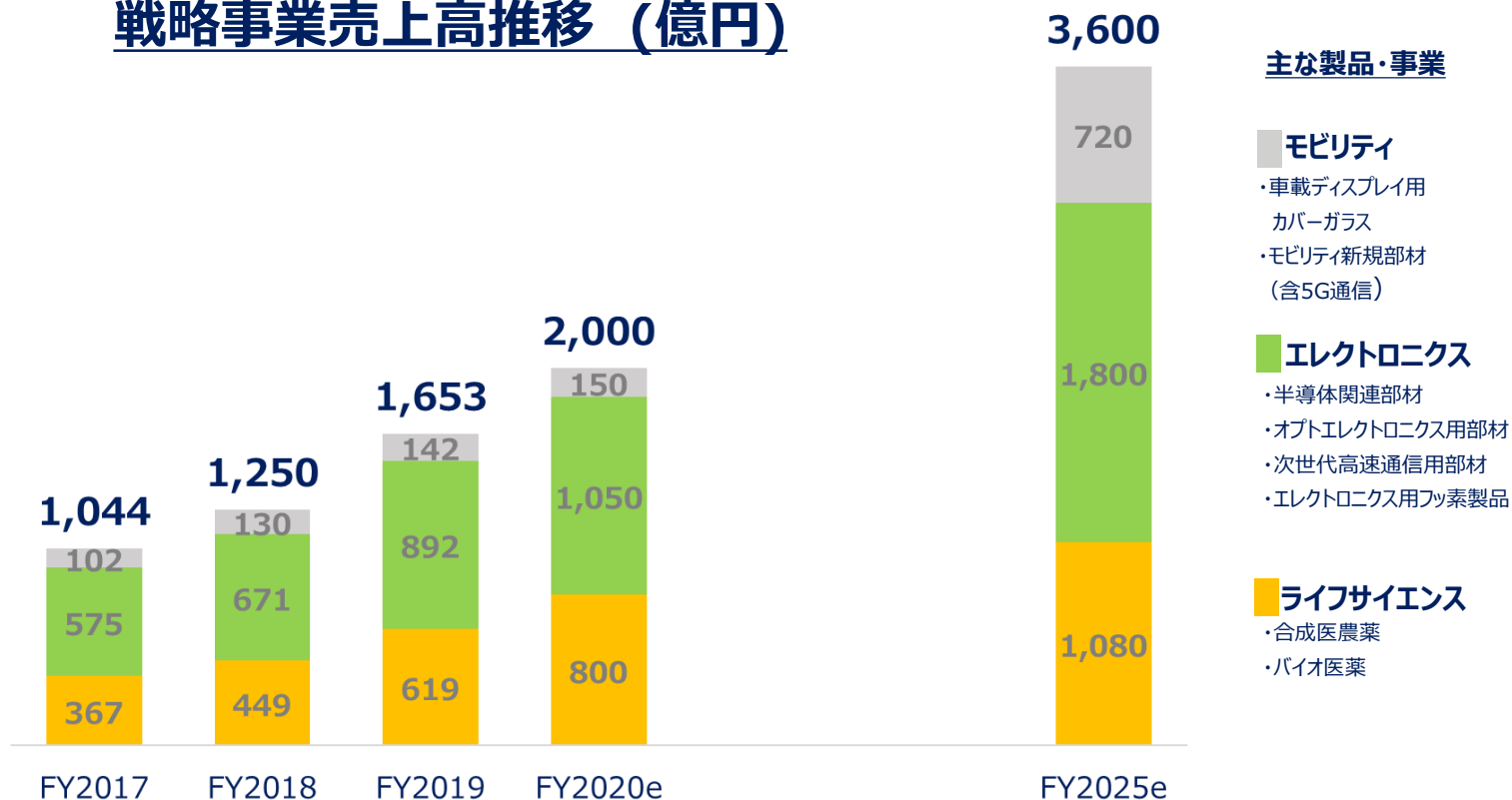
	FY2019		FY2020		増減		FY2020		増減		コロナ禍影響額	
	通期		通期予想(今回)		(b)-(a)		通期予想(7/30発表)		(b)-(c)			
	(a)		(b)		(b)-(a)		(c)		(b)-(c)			
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
ガラス	7,429	93	6,300	▲ 270	▲ 1,129	▲ 363	5,900	▲ 400	+ 400	+ 130	▲ 1,120	▲ 415
電子	2,767	256	2,900	340	+ 133	+ 84	2,900	330	+ 0	+ 10	▲ 70	▲ 30
化学品	4,758	630	4,500	450	▲ 258	▲ 180	4,500	450	+ 0	+ 0	▲ 700	▲ 245
セラミックス・その他	832	39	800	30	▲ 32	▲ 9	850	20	▲ 50	+ 10	+ 0	+ 0
消去	▲ 606	▲ 0	▲ 600	0	+ 6	+ 0	▲ 650	0	+ 50	+ 0	+ 0	+ 0
連結合計	15,180	1,016	13,900	550	▲ 1,280	▲ 466	13,500	400	+ 400	+ 150	▲ 1,890	▲ 690

- コロナ禍から回復基調にあるものの、欧州では感染拡大の第2波の影響が懸念される（4Qコロナ禍影響額 合計：売上高 ▲450億円、営業利益 ▲155億円）

	2020年 4Q見通し	業績見込み	コロナ禍影響額
ガラス	<p>(建築用ガラス)</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本を除く地域は不需要期に入り、QoQで出荷が減少 欧州はコロナ感染第2波の影響が懸念される <p>(自動車用ガラス)</p> <ul style="list-style-type: none"> 不需要期に入り、当社のお荷も減少 欧州はコロナ感染第2波の影響が懸念される 	<p>売上高 1,641億円</p> <p>営業利益 ▲51億円</p>	<p>売上高 ▲200億円</p> <p>営業利益 ▲75億円</p>
電子	<p>(ディスプレイ)</p> <ul style="list-style-type: none"> 液晶用ガラス基板はQoQで出荷は横ばい、価格は▲1桁前半% ディスプレイ用特殊ガラスは客先構成の影響からQoQで出荷が減少 <p>(電子部材)</p> <ul style="list-style-type: none"> 半導体関連部材、オプトエレクトロニクス用部材の出荷は引き続き堅調 	<p>売上高 799億円</p> <p>営業利益 68億円</p>	<p>売上高 ▲10億円</p> <p>営業利益 ▲5億円</p>
化学品	<p>(クロールアルカリ・ウレタン)</p> <ul style="list-style-type: none"> 東南アジアのクロールアルカリ製品の需要は緩やかに回復 <p>(フッ素・スペシャリティ)</p> <ul style="list-style-type: none"> コロナ禍の影響により航空機向けなどの需要は低迷するものの、自動車向け・建築向けの需要はゆるやかに回復。 <p>(ライフサイエンス)</p> <ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス用ワクチン開発関連の新規受託もあり、堅調に推移 	<p>売上高 1,284億円</p> <p>営業利益 125億円</p>	<p>売上高 ▲240億円</p> <p>営業利益 ▲75億円</p>

- コロナ禍の影響は限定的で順調に業績拡大する見通し
- 5 / 18発表時から変更。エレクトロニクスとライフサイエンスが上振れる見通し

戦略事業売上高推移 (億円)



戦略事業 営業利益	120	207	268	320	900	(億円)
営業利益貢献比率	10%	17%	26%	58%	40%	

* 2020年5月18日発表：売上高 1,900億円 (エレクトロニクス 1,000億円、ライフサイエンス 750億円、モビリティ 150億円)、営業利益 300億円

■ 設備投資額、減価償却費は期初見通しから変更なし

	年間	
	FY2019	FY2020e
設備投資額	2,077	2,200
ガラス	804	600
電子	558	810
化学品	690	770
セラミックス・その他	25	20
消去	▲ 1	0
減価償却費	1,434	1,500
ガラス	525	510
電子	473	510
化学品	394	440
セラミックス・その他	43	40
消去	▲ 1	0
研究開発費	475	480*

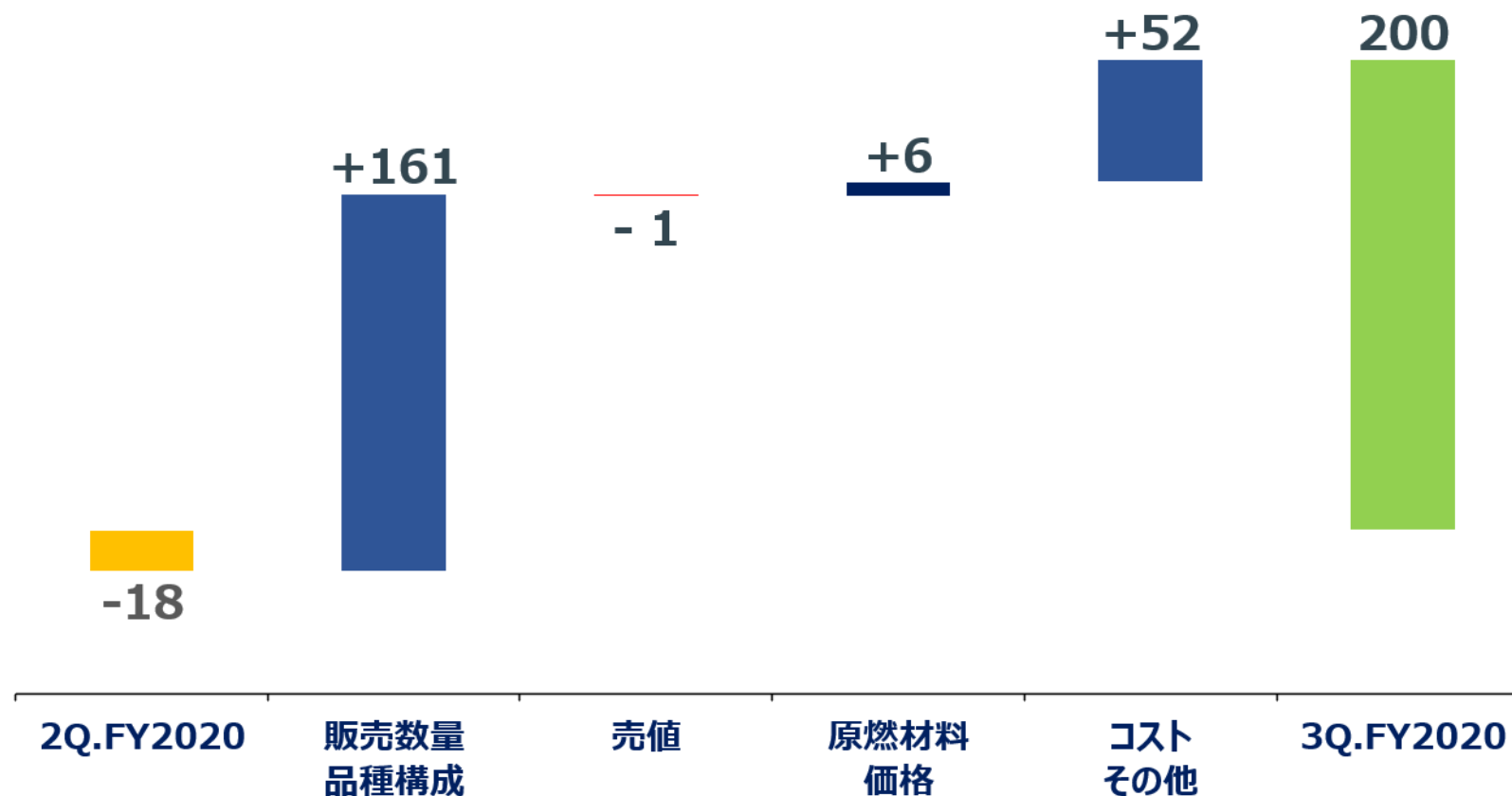
* 2020年7月31日予想金額 490億円より変更

付属資料

営業利益増減要因分析(3Q.FY2020 vs. 2Q.FY2020)

前四半期比 218億円増益

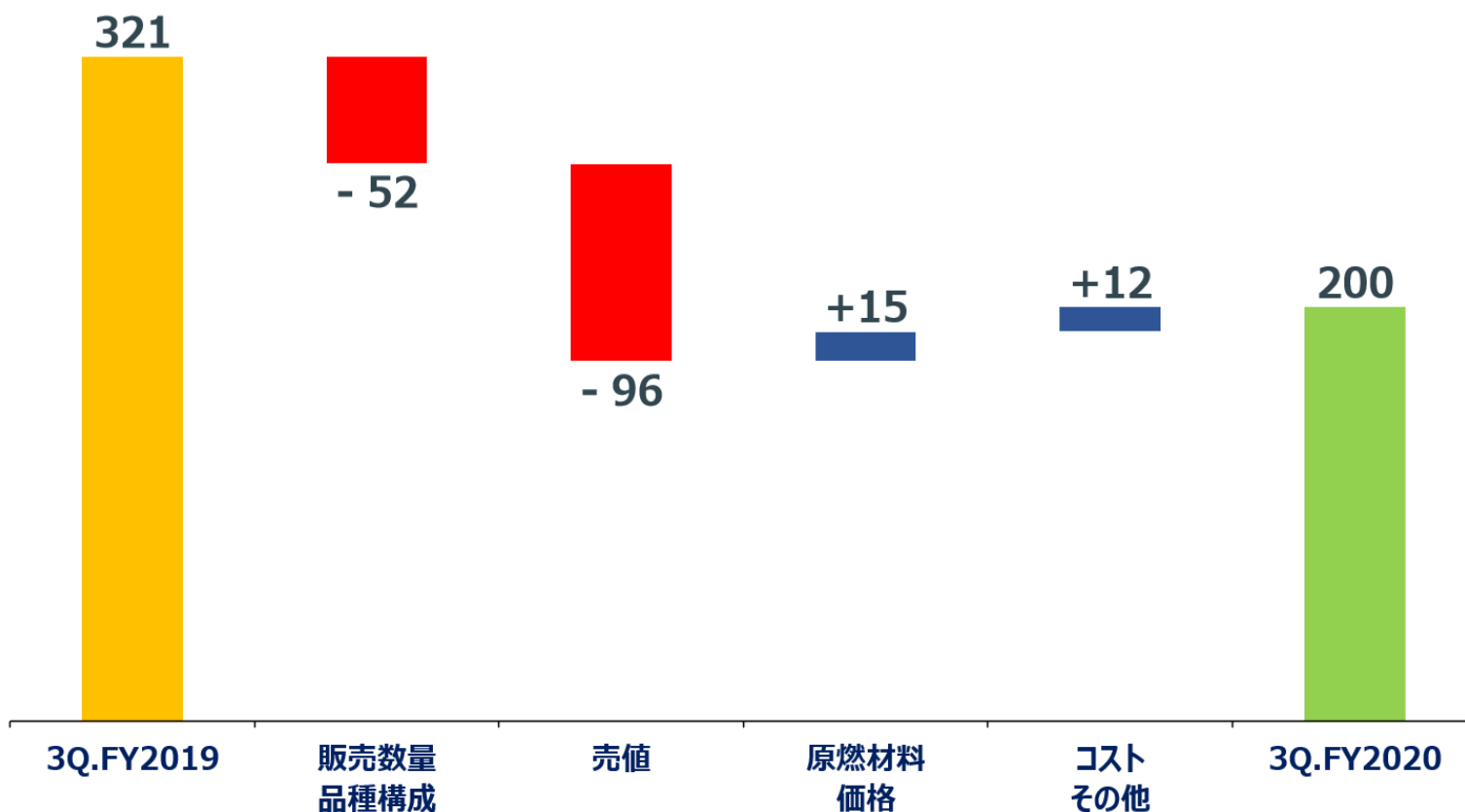
(億円)



営業利益増減要因分析(3Q.FY2020 vs. 3Q.FY2019)

前年同期比 121億円減益

(億円)



売上高 セグメント・地域別展開 前年累計比較

(億円)

		日本・ アジア	アメリカ	ヨーロッパ	セグメント間	合計	
ガラス	建築用ガラス	1-3Q.FY2020	822	318	1,207	-	2,348
		1-3Q.FY2019	889	350	1,382	-	2,621
	自動車ガラス	1-3Q.FY2020	1,251	396	646	-	2,293
		1-3Q.FY2019	1,566	535	859	-	2,959
		1-3Q.FY2020	2,073	714	1,853	19	4,659
		1-3Q.FY2019	2,455	885	2,241	12	5,592
電子		1-3Q.FY2020	1,883	166	8	45	2,101
	1-3Q.FY2019	1,775	134	7	91	2,007	
化学品		1-3Q.FY2020	2,588	231	386	11	3,216
	1-3Q.FY2019	2,894	284	295	10	3,483	
セラミックス・その他		1-3Q.FY2020	227	-	-	350	577
	1-3Q.FY2019	268	-	-	342	610	
消去		1-3Q.FY2020	-	-	-	▲ 424	▲ 424
	1-3Q.FY2019	-	-	-	▲ 455	▲ 455	
合計		1-3Q.FY2020	6,771	1,110	2,247	-	10,128
	1-3Q.FY2019	7,391	1,303	2,544	-	11,238	

売上高 セグメント・地域別展開 前年同期比較

(億円)

		日本・ アジア	アメリカ	ヨーロッパ	セグメント間	合計	
ガラス	建築用ガラス	3 Q .FY2020	279	121	440	-	840
		3 Q .FY2019	312	121	441	-	875
	自動車ガラス	3 Q .FY2020	455	168	246	-	869
		3 Q .FY2019	527	174	262	-	963
		3 Q .FY2020	734	290	686	7	1,717
		3 Q .FY2019	839	295	704	3	1,840
電子		3 Q .FY2020	643	60	2	10	715
		3 Q .FY2019	680	50	3	28	761
化学品		3 Q .FY2020	884	78	125	3	1,091
		3 Q .FY2019	999	87	108	4	1,197
セラミックス・その他		3 Q .FY2020	79	-	-	115	195
		3 Q .FY2019	99	-	-	107	206
消去		3 Q .FY2020	-	-	-	▲ 135	▲ 135
		3 Q .FY2019	-	-	-	▲ 142	▲ 142
合計		3 Q .FY2020	2,340	428	814	-	3,582
		3 Q .FY2019	2,617	431	814	-	3,863

(億円)

ガラス	3Q.18	4Q.18	1Q.19	2Q.19	3Q.19	4Q.19	1Q.20	2Q.20	3Q.20
売上高	1,868	1,953	1,861	1,890	1,840	1,837	1,693	1,249	1,717
建築用ガラス	878	964	857	890	875	905	801	706	840
自動車用ガラス	987	985	1,001	996	963	923	889	534	869
(セグメント間)	3	4	4	5	3	9	3	8	7
営業利益	29	44	35	39	23	▲ 4	▲ 26	▲ 182	▲ 12

電子	3Q.18	4Q.18	1Q.19	2Q.19	3Q.19	4Q.19	1Q.20	2Q.20	3Q.20
売上高	646	670	594	652	761	760	693	693	715
ディスプレイ	431	436	398	441	449	460	433	433	448
電子部材	184	199	160	185	283	276	238	247	257
(セグメント間)	30	34	36	26	28	24	22	13	10
営業利益	61	78	25	35	109	87	89	85	99

化学品	3Q.18	4Q.18	1Q.19	2Q.19	3Q.19	4Q.19	1Q.20	2Q.20	3Q.20
売上高	1,252	1,295	1,127	1,158	1,197	1,275	1,142	983	1,091
クローラルカリ・ウレタン	848	827	705	710	745	768	695	559	632
フッ素・スペシャリティ	304	328	287	299	302	311	283	247	250
ライフサイエンス	96	136	132	146	147	193	160	173	207
(セグメント間)	3	3	3	4	4	3	4	5	3
営業利益	166	209	144	118	177	191	151	75	98

数量・価格動向

				2019				2020				
				1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q		
前年同四半期比 (YoY)												
ガラス	建築用ガラス (AGC)	日ア	数量	-1割弱	横ばい	-数%	横ばい	-数%	-1割弱	+1桁半ば		
			価格(日)	+1桁半ば	+1桁半ば	微増	微増	+数%	+1桁半ば	+数%		
		北米	数量	-数%	+1桁半ば	+数%	-1割弱	-1割弱	-約2割	+数%		
			価格	横ばい	-数%	-1桁半ば	-1桁半ば	-1割弱	-1桁半ば	-1割弱		
		欧州	数量	微増	+数%	微減	微減	横ばい	-約2割	+数%		
			価格	-数%	微減	-数%	-1割弱	-1割強	-2割強	-2割弱		
	自動車用生産台数 (IHS Markit 10/16データより)		日本	数量	+0%	+5%	+5%	-10%	-7%	-48%	-12%	
			北米	数量	-3%	-3%	-1%	-9%	-11%	-68%	+1%	
欧州・ロシア			数量	-4%	-7%	+1%	-5%	-17%	-62%	-8%		
電子	ディスプレイパネル需要* (Omdia社)	グローバル	面積	+6%	+6%	+3%	+4%	-0%	+4%	+10%		
市況実績値												
化学品	東南アジアクロアリ (Bloombergより)	苛性ソーダ	価格	USD/MT	421	381	339	311	290	290	275	
			PVC	価格	USD/MT	845	880	870	840	805	790	970
			エチレン	価格	USD/MT	935	675	790	680	500	800	805

*Source : Omdia-2020-Q2-Display Long-Term Demand Forecast Tracker-Pivot

Results are not an endorsement of AGC Inc. Any reliance on these results is at the third-party's own risk.

		IFRS				
		15/12	16/12	17/12	18/12	19/12
売上高	百万円	1,326,293	1,282,570	1,463,532	1,522,904	1,518,039
営業利益	百万円	71,172	96,292	119,646	120,555	101,624
営業利益率	%	5.4	7.5	8.2	7.9	6.7
親会社の所有者に帰属する当期純利益	百万円	42,906	47,438	69,225	89,593	44,434
自己資本当期純利益率 (ROE) *1	%	3.9%	4.3%	6.1%	7.7%	3.9%
総資産営業利益率 (ROA) *2	%	3.5%	4.8%	5.7%	5.4%	4.4%
自己資本比率	%	55%	55%	53%	51%	50%
D/E (有利子負債・純資産比率)	倍	0.40	0.37	0.38	0.43	0.47
営業CF/有利子負債	倍	0.40	0.47	0.42	0.35	0.32
一株当たり当期純利益 (EPS) *3	円	185.60	205.14	302.12	399.51	200.85
一株当たり配当金	円	90	90	105	115	120
EBITDA *4	百万円	228,381	195,767	249,880	259,425	231,857
為替レート (期中平均)	円/ドル	121.05	108.84	112.19	110.43	109.05
	円/ユーロ	134.31	120.33	126.66	130.42	122.07

*1 親会社の所有者に帰属する当期純利益/親会社の所有者に帰属する持分合計 (期中平均)

*2 営業利益/総資産 (期中平均)

*3 当社は、2017年7月1日をもって普通株式5株を1株に併合しています。一株当たり当期純利益は株式併合の影響を踏まえて換算しています。

*4 EBITDA (支払利息・税金・減価償却費控除前利益) = 税引前利益 + 減価償却費 + 支払利息

その他の財務指標についてはこちらを参照ください。 https://www.agc.com/ir/pdf/data_all.pdf

発表日	内容
2月4日	CDPから水リスクへの取り組みが評価され最高評価「Water Security A List 2019」に選定
3月2日	「健康経営優良法人2020ホワイト500」に認定
3月3日	女性活躍推進に優れた企業として「なでしこ銘柄」に選定
3月17日	遺伝子・細胞治療に取り組むMolecular Medicine S.p.A.の株式公開買付を決定
4月7日	スペイン合成医薬品生産拠点の設備増強を決定
5月18日	連結業績予想および配当予想の修正に関するお知らせ
5月21日	タカラバイオから新型コロナウイルスDNAワクチン中間体の製造を受託
6月2日	米国バイオ医薬品原薬製造工場を買収
6月3日	『窓を基地局化するガラスアンテナ』5 G 対応の開発が完了
7月2日	FRONTEOと共同でAI Q&Aシステム「匠KIBIT」を開発
7月20日	Molecular Partners AGから新型コロナウイルス感染症向け治療薬候補「MP0420」の製造を受託
7月27日	EUV露光用フォトマスクブランクス供給体制を大幅増強
7月28日	Molecular Medicine S.p.A.の株式公開買付完了へ
8月18日	Novavaxの新型コロナウイルス感染症ワクチン候補アジュバントの製造受託規模を拡大
8月25日	「DX銘柄2020」に選定
9月1日	名古屋大学とAGC、テーマ探索から社会実装までの一気通貫型の新たな産学連携の取組みを開始
9月10日	大型・曲面車載ディスプレイ用カバーガラスがキャデラックの新型「エスカレード」に採用
10月28日	AGC Biologics 社の遺伝子・細胞治療CDMO のサービス拡大を本格化



Your Dreams, Our Challenge

END

予測に関する注意事項：

本資料は情報の提供を目的としており、本資料による何らかの行動を勧誘するものではありません。本資料（業績計画を含む）は、現時点で入手可能な信頼できる情報に基づいて当社が作成したものでありますが、リスクや不確実性を含んでおり、当社はその正確性・完全性に関する責任を負いません。

ご利用に際しては、ご自身の判断にてお願いいたします。本資料に記載されている見通しや目標数値等に全面的に依存して投資判断を下すことによって生じ得るいかなる損失に関しても、当社は責任を負いません。

この資料の著作権はAGC株式会社に帰属します。

いかなる理由によっても、当社に許可無く資料を複製・配布することを禁じます。